



ご自由に
お持ち
ください

令和8年7月号



糸でんわ

vol.
188

脳神経外科のご紹介

補聴器外来、
人工内耳手術
についてのご案内

看護師のおしごと図鑑
摂食嚥下障害看護認定
看護師 編

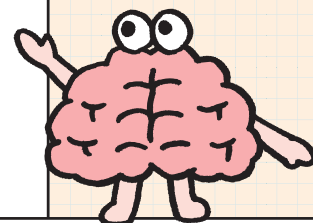


着任のご挨拶と脳神経外科のご紹介



脳神経外科 医長
つのだ しょう
角田 翔

このたび、東京都健康長寿医療センター脳神経外科の診療科長に着任いたしました角田 翔と申します。私はこれまで、東京大学脳神経外科関連病院（NTT東日本関東病院、公立昭和病院など）において、顕微鏡下直達手術を専門に研鑽を積んでまいりました。近年、脳神経外科ではカテーテル治療や内視鏡治療などの低侵襲治療が大きく進歩し、患者さんの負担軽減に貢献しています。一方で、複雑な脳動脈瘤をはじめ、顕微鏡下直達手術によってこそ、安全かつ根治的な治療が可能となる症例も少なくありません。しかし近年では、こうした直達手術を専門に行う術者が減少しており、十分な治療選択肢を提示することが難しい施設もあります。私はこれまで、高難度症例を含む幅広い疾患に対して手術経験を重ね、安全性と根治性、さらには傷口などの整容面にも配慮した治療に取り組んでまいりました。当院でも、患者さん一人ひとりの病態や全身状態を総合的に評価し、血管内治療、顕微鏡下直達手術、内科的治療を含めた複数の選択肢の中から、最適な治療をご提案できる体制が整ったと考えております。地域の皆さまに信頼していただける脳神経外科を目指し、スタッフ一同尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



24時間体制の脳卒中診療

当科では脳神経内科と連携し、24時間体制で脳卒中診療を行っております。脳梗塞に対するrt-PA静注療法や、急性血管閉塞に対する血栓回収療法などの急性期治療に迅速に対応しているほか、脳出血やくも膜下出血に対する緊急手術にも常時対応可能な体制を整えております。

脳血行再建術 — 脳の血流を守る手術 —

脳や首の血管が狭くなったり閉塞したりすると、脳血流が不足して脳梗塞をひき起こします。薬による治療だけでは十分な脳血流を維持できない場合には、脳血行再建術を行います。血行再建術のうち、今回は「脳血管バイパス術」についてご紹介します。この手術は、頭皮の血管を脳の血管につなぎ、新しい血流の通り道を作る手術です（図1）。手術後は脳血流が改善し、脳梗塞の再発を予防することができます（図2）。

図1

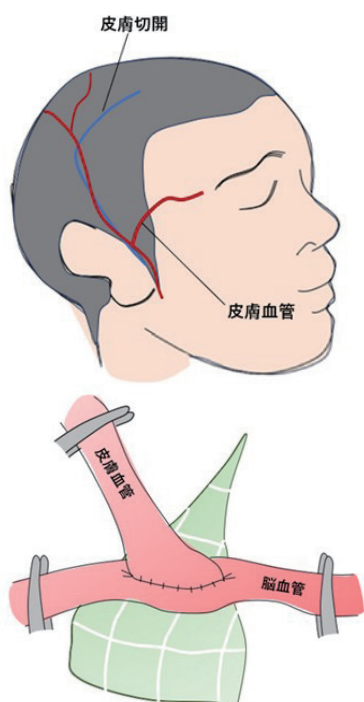
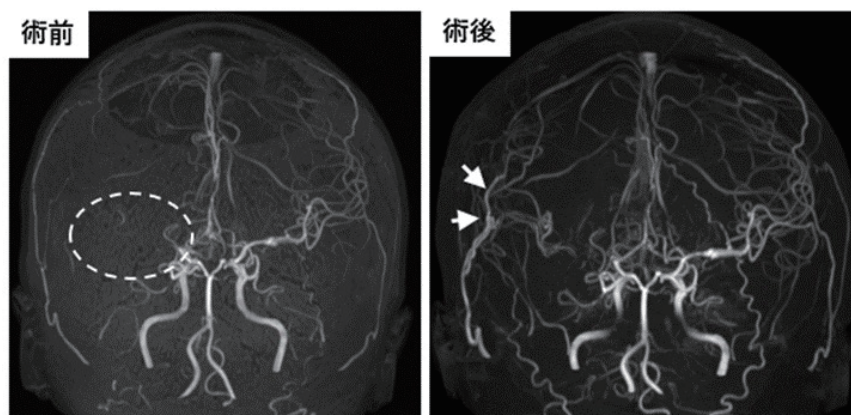
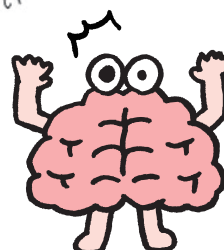


図2



右中大脳動脈に閉塞あり
脳血管が映らない

皮膚血管が脳血管へバイパスされている



脳動脈瘤治療 — くも膜下出血を防ぐために —

脳動脈瘤は脳の血管にできる“こぶ”で、脳ドックなどで偶然発見されることも少なくありません。しかし、ひとたび破裂してしまうと“くも膜下出血”を引き起こし命に関わります。治療法には、金属製クリップで動脈瘤を閉鎖する「開頭クリッピング術」(図3)と、カテーテルによる血管内治療があります。当科では患者さんの年齢や全身状態、動脈瘤の場所や形状を総合的に判断し、最適な治療法を提案いたします。

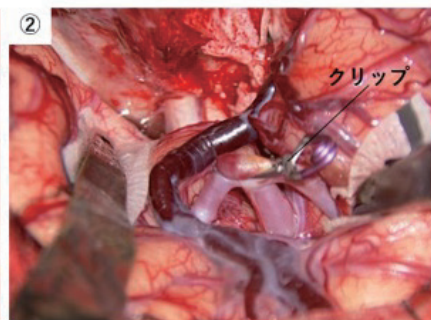
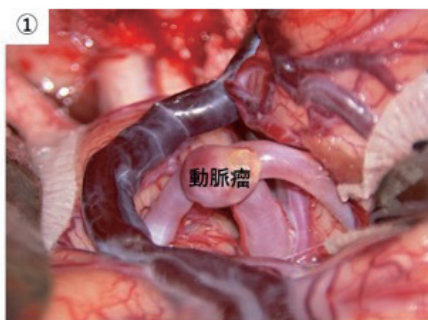
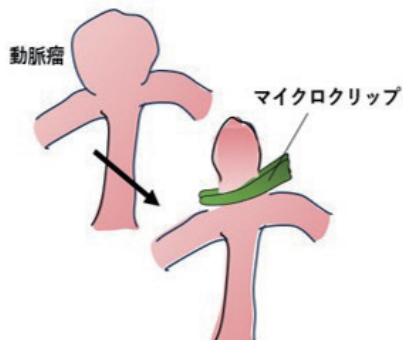


図3 開頭クリッピング術 ①動脈瘤を露出したところ ②クリップで動脈瘤を閉鎖したところ

三叉神経痛 — 顔の激しい痛みに対する治療 —

顔に電気が走るような激しい痛みを生じる三叉神経痛は、脳の血管が神経を圧迫することで発症する病気です。このたび当センターでは、これまで実施が困難であった「微小血管減圧術」が可能となりました(図4)。

この手術は、神経に接触している血管を移動させ、痛みの原因そのものを取り除く根治的治療です。薬で十分な改善が得られない方や、強い痛みにより日常生活に支障をきたしている方でも、典型的な症例では9割以上で良好な改善・根治が期待できます。

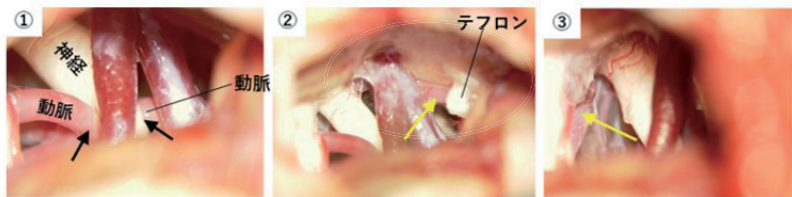
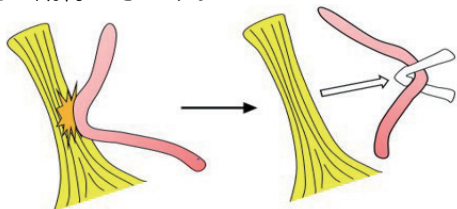


図4 微小血管減圧術

- ①三叉神経の上下から動脈が接触している
- ②上側の接触動脈を移動させたところ
- ③下側の接触血管を移動させたところ

今回ご紹介した病気以外にも、脳には様々な病気が発生します。当院ではこれらの疾患のほとんどに対して対応可能ですので、何なりとご相談ください。

～ご寄附のお願い～

高齢者医療の提供や研究を推進するため、企業や個人から「健康長寿応援資金」へのご寄附を募っております。皆さまからの温かいご支援を、心よりお待ちしております。

お問い合わせ先：総務課総務係

着任のご挨拶と補聴器外来、人工内耳手術についてのご案内



耳鼻咽喉科 医長
まるやま あやこ
丸山 絢子

ご挨拶

2026年4月より耳鼻咽喉科へ医長として着任した丸山絢子と申します。赴任前は東京科学大学（旧東京医科歯科大学）耳鼻咽喉科に在籍しておりました。

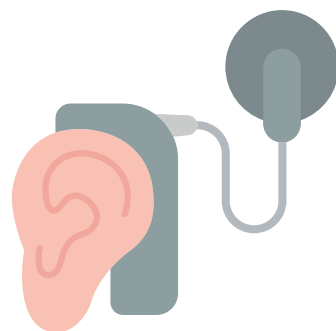
耳鼻咽喉科では、健康な日常生活に欠かせない感覚や能力を広く扱っています。具体的には、聴覚、嗅覚、味覚、バランス（平衡覚）、嚥下、発声が挙げられます。いずれも加齢の影響を受けやすい領域ですが、頭頸部腫瘍などの重篤な疾患が隠れている場合や、治療や介入により症状の改善が期待できることもあります。耳鼻咽喉科専門医、専門研修指導医として、当科領域のいずれのご症状にも対応し、適切な治療や介入、アドバイスを行ってまいります。ご高齢の方はもちろん、小児を除くすべてのご年齢でご相談が可能です。若年の方もお気軽にご相談ください。

主な専門領域は聴覚、耳科領域ですので、特に当センターでの補聴器外来と人工内耳手術について、以下にご紹介いたします。

補聴器外来

当センターでは火曜日以外の平日午後に補聴器外来を行っております。難聴は介入可能な認知症のリスクファクターである、と言われていますが、適切な時期から補聴器を使用しコミュニケーション能力を維持することは、その方らしい生活を行っていただく上で非常に重要です。

では、補聴器はいつ、どのように始めればいいのでしょうか。高い補聴器がいいのでしょうか。耳に不具合が起きたらどうすればいいのでしょうか。病院で補聴器についてご相談いただくメリットは、耳鼻咽喉科医がこれらの疑問に医学的な視点からおこたえし、その方に最適な選択についてご案内できることです。当科の補聴器外来では、開始前に現在の状態から補聴器によってどのような効果が期待できるか、またできないかをお話します。一定期間の調整を経て補聴器適合検査を行い、適切な調整が行えているか確認するとともに、ご本人に効果を実感していただいて、最終的に購入を決定して頂きます。購入後は、定期的に聴力やお耳の状況を確認します。



看護の日 イベントを開催しました

イキイキ体操や手洗いキャンペーン、血管の硬さ測定、AED 体験などを通して、地域の皆さまと健康について楽しく学ぶ機会となりました😊

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！



人工内耳手術について

加齢に伴う難聴の特徴に、単純な音の聞き取りに比べて言葉の聞き取りが難しくなることがあります。最適な調整をしても、その方の余力以上の効果を得ることは残念ながら補聴器では困難です。難聴が進行し、補聴器では会話が難しい場合には、人工内耳埋込術が選択肢になります。全身麻酔で耳の後方の皮下に器械（図1）を埋め込み、電極を蝸牛（耳の奥の骨の中で、聴こえの細胞が存在する場所）に挿入します。



図1 体内インプラント ©株式会社日本コクレア

術後に体の中に埋め込んだ器械と、外からの音を拾う装置（図2）を磁石でくっつけて、聴神経を直接刺激します（図3）。手術直後から聞こえるようになるわけではなく、外来で人工内耳の聞き取りに慣れるためのリハビリが必要ですが、認知症や特定の手術を妨げる原因がなければ、ご高齢でもご相談が可能です。当センターでも手術を行える体制が整っています。「一度試してみたい、説明を聞いてみたい」という場合にはぜひご相談ください。



図2 体外装置 ©株式会社日本コクレア

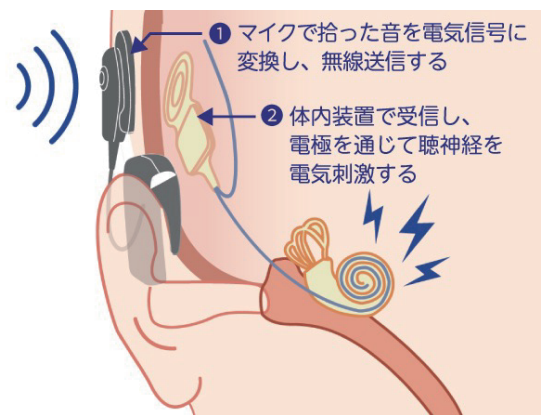


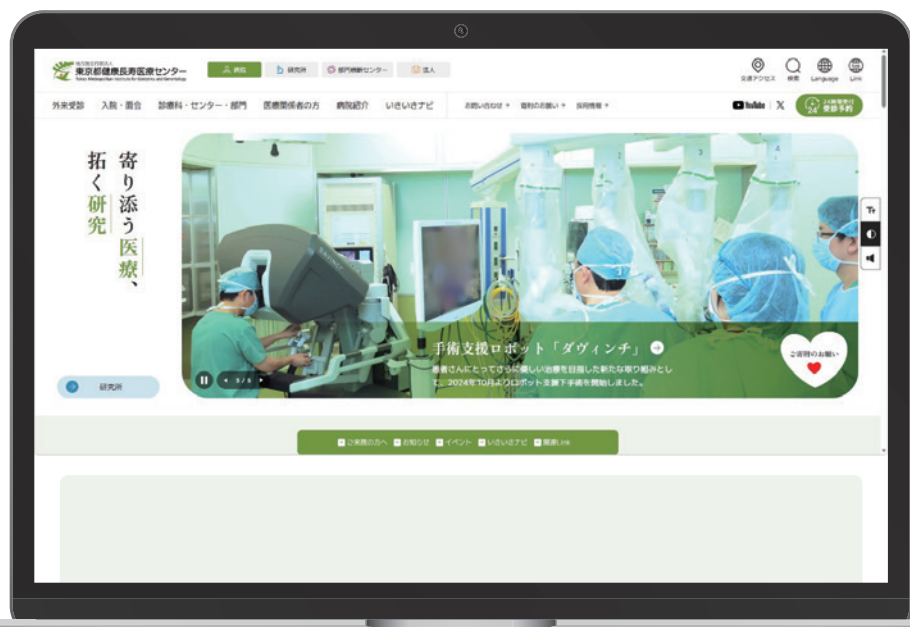
図3 人工内耳のしくみ ©株式会社日本コクレア

※当センター人工内耳手術の施設基準が変更となり、手術は中断しております。対象となる方は当センターで必要な検査を行い、連携施設へ紹介すると共に、当センターで再度手術を行えるよう目指してまいります。

ホームページを
リニューアル
しました！

より見やすく、
より分かりやすく。
ぜひ、新しくなった
ホームページをご覧ください。

<https://www.tmig.or.jp/>



看護師のおしごと図鑑

摂食嚥下障害看護認定看護師 編

新名 由利子・宮本 有花里・吉村 秀平

患者さんの「食べたい」という思いを支えるために

今回は、摂食嚥下障害看護認定看護師についてご紹介します。当センターには 3 名の摂食嚥下障害看護認定看護師がおります。私たちは病気や加齢で「食べる・飲み込む」ことが難しくなった患者さんに対し、専門的な知識と技術で安全に食べることを支援しています。患者さんの「食べたい」という思いを支えるため、食事内容の検討や食べやすい食事の形、食べる機能を上げるリハビリのご紹介、口腔ケアなどを通じて、患者さん自身の「食べる力」を維持・向上できるようサポートしています。また、食事場面や介助に関わるスタッフへの支援も行なっています。



栄養サポートチームの一員として

私たちは患者さんの栄養に関しても支援しています。当センターでは、栄養管理に関わるチームがあり、医師を含めた多くの職種と一緒に活動しています。その患者さんにとって栄養が不足していないかを検討し、適切な食事の内容をご提案しています。

「食べる」ことは生きる喜びそのものです。もし、食べることに不安に感じる事があれば、お一人で悩まず、ぜひ私たち摂食嚥下障害看護認定看護師にご相談下さい。安全に、そして美味しく食事が摂れるよう支援いたします。

皆様からのご意見にお答えします

病院の自転車置き場に、利用者以外の方も自転車を駐輪しているため、駐輪場所を探したり、自転車を移動させることが毎回大変です。

→この度はご不便、ご負担をおかけし、誠に申し訳ございません。今後は「利用者専用自転車置き場」であることが明確に伝わるよう、掲示内容を見直し、改善に努めてまいります。

自動支払機のバーコード読み取り位置がわかりにくいので、案内係が欲しいです。

→ご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。6月より、バーコードの読み取り位置をご案内するプレート

設置いたしました。ご不明な点がございましたら、お近くのスタッフまでお気軽にお声がけください。

アイソトープ検査の際には、お世話になったスタッフの皆様の、患者に寄り添った丁寧なご対応に感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

→この度は、温かいお言葉をお寄せいただき、誠にありがとうございます。当該部署にも共有させていただきました。いただいたお言葉を励みに、今後も質の高い医療の提供を目指し、スタッフ一同努めてまいります。

